

# 令和4年度 施設関係者評価実施報告書

令和5年3月18日

報告者氏名 坂崎 隆浩

評価者氏名 栴沢 幸苗



## ①全体評価

新型コロナ・ウィルスによって二度の閉園があり、厳しい保育環境であったと思う。適切な教育環境整備の下による日常の保育に加え、行事も苦労しながら行われたことを評価する。その背景には、保護者及び家庭の皆様のご協力、そして教育委員会、小中学校との連携があったと考える。また職員もやりくりしながら良く対応している。5歳児は、公開保育(内容「音楽」)や行事の中心的存在として活躍し、卒園式で立派な姿が幼児期の終わりとして見受けられた。付帯の子育て支援センターも少しずつ復活してきている。園内に開設した児童発達支援事業との接続も始まり今後の更なる良い展開が望まれる。懸念する材料としては少子化が進んでいる状況への対応、そして架け橋プログラムの創設など村当局と相談して取り組んでほしいと思う。

## ②学校評価の個別評価

法人の教育・保育理念に基づいた指導	「全体的な計画」「教育課程」の下、各種指導計画が作成されて、又それに沿って各学年の発達に即した教育・保育が推進されている。
保健管理	コロナ対策は三長会、村教育委員会、小中学校との連携も適切にとられていた。また二度に渡るコロナ対応もよくとられていた。
安全管理・災害への対応	避難訓練・安全教室の他、業者による施設点検もきちんとされている。園児バスは村にて運行されているが、その連携には十分配慮した。
小学校との連携	現行のままでアプローチカリキュラムが行われている。村の架け橋プログラムの作成に期待するとともに小学校教員の園視察を強く望みます。
職員会議・ケース会議等	月一回の職員会議、給食会議の他、行事及び園児個別、コロナ、虐待等に関する会議が行われていた。
研修(資質向上の取組)	園内研修、法人研修、外部研修が定期的に行われた。研修の中心はオンラインが中心であったことは当然だと思われる。
自己評価	チェックリストによる総合的な自己評価と週、月、学期毎の教育・保育の評価がきちんとされている。
情報提供	基本的な考えはホームページに掲載。コロナ、行事の変更等園だよりや保健・食育だより、玄関掲示により必要な情報が提供された。
保護者・家庭との連携	同上による保護者への連絡をこまめにしてコロナ対応の中、行事等への参加がされた。
子育ての支援	主幹保育教諭を中心として、定期的に保育や保健衛生の情報提供などの相談対応が出来ていた。
延長保育等	利用数は少ないが、利用者には適切に対応している。
食育と食事の提供	栄養バランスが取れた給食が提供されている。栄養士等による食育指導も行われている。

## ③その他必要な評価

子育て支援センター/MOCOMOGOクラブ	非常に厳しい状況であったが、毎日ほぼおこなわれた。オンラインによる子育て支援も実施されたが、これらは今後の課題のひとつである。
地域の行事への参加	村主催等の行事はほぼ中止となった。コロナ5類以降の新年度への様々な参加が期待される場所である。
不適切な保育への対応	4月の職員会議とともに、12月には園長による虐待予防の研修がなされている。新年度に向けて虐待防止委員会を立ち上げた。

## ④課題と検討

令和4年度は11年目の新たな節目の年であった。園開設以降初めての休園の体験を生かし、今後も園を通常通り開園していただきたい。新年度も子育て支援センターや児童発達支援事業所と一体化し、園児ひとり一人を大切に丁寧かつ真摯な保育に進進していただきたい。また、本年度全国で問題になったバス等への対応や不適切な保育への職員への啓蒙とともに研修なども引き続いて体制強化に努めたい。特に望むのは、5歳児から小学校1年生の24か月にわたる架け橋プログラムは東通村としては、こども園開設からの大きな課題であるので内容のある立派なプログラミングを望む。また小学校の教員が直接園に、園から保育教諭が小学校を見学することを付記して評価としたい。

評価委員：※栴沢 幸苗(委員長) 濱田 裕子 鍋谷ちひろ 奥島 蘭 坂本 優斗

※令和5年2月末の職員自己評価、同3月18日に施設関係者評価(学校評価)を下に、又同日開催の運営協議会(苦情解決第三者委員会兼務)の意見も加味し報告書を作成した。